

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 — — —)

事業所番号	O690800297		
法人名	社会福祉法人正覚会		
事業所名	グループホームライフケア黒森		
所在地	山形県酒田市黒森字葎葉山54-10		
自己評価作成日	平成30年1月12日	開設年月日	平成26年4月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が「心地よい感覚」を持ち、生活できるよう支えていくことをコンセプトの中の一つに掲げ、ご利用者は勿論職員も笑顔の多い職場となっています。心地よい感覚を持って頂けるように、認知症緩和ケアの取り組みとして「学習療法」を取り入れており、現在はお希望のあるご利用者を対象に提供しています。昨年度より、ご利用者と職員が協力しながら畑を作っており、自分達で野菜などを育てることで昔の事を思い出し、水遣りなどの役割を持った生活を送っています。その様子などを「GH通信」でご家族に発信しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「コンセプト」の「心地よい感覚をもち生活できるよう支える」ことを大切にしている。職員は、一人ひとりの好む事や物を深く知り、生活の中の会話やささいな変化を見逃さず、希望を叶えるように努力している。また、認知症の進行を緩和するため、希望者に「学習療法」の実施を支援し、「自分ではできる」ということを感じてもらっている。学習療法の過程の中の職員と利用者が向き合う月次検討会は、認知症の進行の緩和とその人らしい生活の検討のための機会となっている。この活動から利用者が前向きになり、家事や野菜作りなどの役割を積極的に担う方が多くなっている。また、前年の目標達成計画を踏まえ写真の多い「グループホーム便り」を作成し、家族等に配布しているため、家族との関係性が強まり、地域の理解も高まってきている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(協)オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	平成 30年 2月 6日	評価結果決定日	平成 30年 3月 12日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内の数箇所に事業所コンセプトに掲示し、全職員の視覚に届く様にしている。また、会議等でコンセプトの共有や判断に困ったときの判断基準となることを説明し実践につなげている。	法人理念を踏まえて皆で作成した「利用者が心地よい感覚を持ち、生活できるように支えています」というコンセプトを、玄関や事務所に掲示しながら、また、月例職員会議で確認し合いながら、支援にしている。職員は一人ひとりのの好みを熟知して希望を叶え、そして心地よく過ごせるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食事作りの際など地域の商店で買い物や弁当を頼んだり、地域行事や学校行事(敬老会、文化祭など)に参加するなどして地域と交流を持っている。法人で開催している夏祭りにも地域より沢山の方が来所しており、楽しい交流が図られている。	前回評価の目標達成計画を受けて、広報紙の配布などに心掛けており、地域との交流が大きくなっている。黒森地域の敬老会や文化祭、運動会、盆踊り、コミュニティセンターのいきいき体操、小学校の相撲大会見学などに参加するとともに、法人施設全体の夏祭りに地域の方からも参加をいただいたり、小中学生のボランティアの訪問を受けたりしている。「地域の一員として」の交流が生まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症緩和ケアとして取り組んでいる学習療法について広報等で情報を発信したり、施設見学者や中学生の職場体験等でも認知症の方の理解が深まるよう対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を有効に活用し、事業計画や実績報告や活動内容を報告し、委員からの意見を頂きながら運営に活かしている。	2か月に1回、酒田市職員・自治会長・民生委員・地域包括職員と職員とで開催している。利用者の現状や行事、インフルエンザ等時宜の話題を報告した後、意見交換をしている。会議の持ち方では、行事などのスライドを見てもらい生活感を感じていただき、事業所の満足度調査や外部評価結果を報告しながら、個別ドライブなどの具体的な意見を引き出し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での情報提供や運営に関し疑問点がある場合は、市町村担当者に電話や直接出向き指導を受けたり、案内文書等は電子メールでのやり取りを行っている。	運営推進会議に酒田市職員から参加してもらうとともに、市の介護相談員から毎月訪問してもらっている。一方、市サービス事業者連絡協議会や制度改正説明などには必ず出席するように努め、密接な協力関係が確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関する研修会を内部で開催し、身体拘束をすることでおきる弊害等の理解に努めている。また、毎月開催している運営会議で、法人全体の身体拘束に関する状況を把握している。現在、施設に関しては、グループホームだけでなく法人全体の課題として対応方法を検討しており、施設を通じてご利用者の尊厳ある生活を考える研修会も全職員対象にて実施している。今年度は施設周辺の危険箇所を把握したものをマップ化し、職員研修にて活用し、万が一に備えている。</p>	<p>法人全体で身体拘束廃止宣言をし、身体拘束防止委員会を中心に、毎月開催している運営会議で、法人全体の身体拘束に関する状況を把握している。現在、施設に関して、事業所の課題として対応方法を検討する一方、利用者の尊厳ある生活を考える研修会も全職員を対象に実施している。また、今年度は法人として、施設周辺の危険箇所を把握し、それをマップ化し、研修会で全員への周知を行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年度当初に法人内の社会福祉士より全法人職員に対し制度についての研修会が開催されており、理解を深め日々の介護に活かしている。また、そのような事案のニュースが出た際は、申し送りを利用して注意喚起を行っている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>年度当初に法人内の社会福祉士より全法人職員に対し制度についての研修会が開催されており、理解を深め日々の介護に活かしている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に直接ご家族と管理者が面談する機会を設け、事業に関する説明や質問のやり取りを行い、ご家族が納得して頂いた上で、重要事項説明書及び契約書の説明・同意・契約している。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者・ご家族から直接の話や聞いたり、年に1回、満足度調査アンケートを実施しサービスの質を向上に努めている。またその結果をご家族にも公表している。</p>	<p>利用者からは、一人ひとりの好み等を熟知したうえで、日常会話の中で聴き取るように努めている。市の介護相談員からも意見を訊いてもらっている。また、職員が利用者の「思いでのアルバム」を作成したり、写真を多く使用した「グループホーム便り」を届けたり、年1回、家族の満足度調査アンケートを実施したりしながら、話しやすい環境を作り、面会時や夏祭り・クリスマス会などの折に、率直な意見をうかがっている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者と職員が個人面談する機会があり、意見や提案を聞くことができる。また定期的に事業所会議を開催しており、意見を反映させている。</p>			

自己 外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人内で人事考課制を導入し、自己評価による一次考課と役職職員による二次考課の総合評価を基に上層部と面談する機会がある。</p>			
13	(7)	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内でキャリアパス制度を取り入れ、経験年数に応じた研修プログラムを実行している。また、外部研修も受講している。</p>	<p>法人としてキャリアパス制度を確立し、その研修体系と年間研修計画に沿って、職員の能力・知識体験を踏まえて研修を受けさせるとともに、外部研修にも派遣している。事業所内でも月例会議の際に内外研修の情報を提供して学び合っている。職員の資格取得の際にも学びやすい環境づくりや経済的な支援を行っている。</p>		
14	(8)	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会へ入会している。また、酒田市サービス事業者連絡協議会「地域密着型サービス事業所部会」にも所属しており、各種研修会や他施設との情報交換を行っている。</p>	<p>職員を、県グループホーム連絡協議会及び庄内地区協議会の研修会や交流会、酒田市サービス事業者連絡協議会の地域密着型事業所部会に参加させながら、また、「学習療法」を取り入れている事業所との交流を行いながら、情報交換とネットワークづくりを促し、その成果をサービスの質の向上に活かしている。</p>		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者と管理者が事前にお会いし、本人の状況や要望等を情報収集し、良好な関係づくりに努めている。また入居前に24H事前聞き取り表の記載をご家族に依頼することで、入居後も本人の生活リズムが継続できるよう努めている。</p>			
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族と管理者が事前にお会いし、ご家族の要望を十分にアセスメントし、必要な支援方法を共に考え介護計画を作成している。また入居前に24H事前聞き取り表の記載に関する目的を説明し、協力を頂くことでご家族が安心できるような関係づくりに努めている。</p>			
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>的確なアセスメントを実施し、必要としている事、サービス内容を見極めながら、相談の内容によっては法人内外の他サービスへの連絡調整を行っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活における役割が入居後も継続出来るよう、職員も協力し入居者一人ひとりに合わせた役割を支えている。自らすすんで皿洗いやカーテン開けをして下さるご利用者もいる。また、一人ではやり方が分からないご利用者もいるが、職員や他ご利用者と一緒に行う事で関係を築き、その都度感謝の気持ちを伝えている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族との関係が断ち切らないよう、電話やメール等面会時に状況報告をし、連絡を密に図っている。また、夏祭りやクリスマス会で、ご家族と一緒に食事をしたり、おやつ作りをし家族の絆を大切にしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者との会話の中から親しい友人や、馴染みの場所を開き、関係が断ち切らないよう継続して出かけられるよう努めている。個別ドライブを利用して馴染みの場所へ出かけた入居者もいる。入居者の親類や知人、友人が面会に来た際には、外出等が出来るよう努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が日々関わりあえるよう、一人ひとりの性格を理解し、職員も入居者の輪に入りながら談笑したり、役割を促す事を大切にしている。入居者同士がお互いに助け合い、仲の良いご利用者同士でお互いの居室を行き来しあったりしている方もいる。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を断ち切らないよう、必要に応じて相談や助言を行なうよう努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いやその人らしい暮らし方を把握・尊重し、できる限り本人に決定権を持っていただいている。日常会話や表情・仕草等からご利用者の思いや意向を把握するよう努めている。意向の確認が困難な場合は、ご家族も交えながら相談し、入居者本位に努めている。	利用者・家族から利用開始前に聞き取った生活状況・生活歴や要望等を、また、日常生活での会話や「学習療法」を実施中のコミュニケーション状況などを、一人ひとりの「24時間シート」にしっかりと記録している。職員は、それを踏まえて本人の意向や希望を実現しようと努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族や面会者の方々との関係を大切に、生活歴や趣味・毎日の習慣等の把握に努めている。また、学習療法実施中のコミュニケーションを通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プランの変更時や状態の変化にあつた際は、24Hシートを担当を中心に更新している。また、日々の口頭とパソコンの申し送り等で状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については、月に1回担当職員が計画の進捗状況を確認している。また、入居者及び関係者との連携の中で必要となればサービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しができるようにしている。	記録された生活状況や申し送りなどを踏まえて、担当者は月に1回、介護計画の進捗状況をモニタリングしている。それを踏まえて、何も変化がなければ一年に1回介護計画の見直しを行っている。見直しに際しては、面会等で聴取した家族の意見を踏まえ、利用者が一人ひとりが「心地よく」、気分よく過ごせるように、サービス担当者会議で、意見やアイデアや出し合いながら、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は日々パソコン入力しており、特に重要な項目は口頭・パソコンの申し送りを使用し職員間での情報共有が可能。見直しが必要な際には、随時、ミーティングなどで報告し検討している。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店に買い物に行ったり、コミュニティーセンターでの敬老会に参加し、地域の人との関わりを大切に、地域にある社会資源を活用している。また、社会福祉協議会にて、ご利用者の権利擁護や金銭管理支援等で個別ケースにて関わりがある方がいる。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を構築していくために、本人や家族の状況や思いを的確に伝えるよう努めている。定期通院の他に状態の変化がある時には、電話連絡だけでなく書面での報告している。	本人や家族の希望する医師をかかりつけ医として支援している。通常は家族の付添、必要な場合は看護職員が同行している。家族が同行する場合は、生活状況やバイタル情報を持参してもらっている。診察の結果は職員が連絡を受け、それを個人記録にきちんと入力し、家族にも連絡し、全員で情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から健康状態を気にかけて、熱発などをいち早く発見し報告することができる。また、わずかな変化を見落とさず、早期受診、治療につながったケースもある。必要に応じて、かかりつけ医への情報提供を行っている。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連絡を取り合い、情報共有や傾聴に努めている。また、地域医療連携室と連携をし、退院後の生活について考えていくよう努めている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に事業所の対応可能範囲を説明し、共同生活が困難になった場合は本人・家族と相談しながら今後の生活を検討している。医療行為が必要となった方でも次の受け入れ先が決定するまで当事業所で可能な限り支援している。	事業所の方針については、利用開始時に出来ることと出来ないことを説明して、家族の理解を得ている。共同生活が困難になった場合は、本人・家族と医師・職員が相談しながら、今後の生活のあり方を検討している。同一法人施設と連携を取ったり、医療行為の受け入れ先を検討したり、可能な限り支援している。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で救急救命講習を行っている。また、急変、事故夜間帯の対応などマニュアルを作成し、速やかな対応が出来るように努めている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本体と合同の消防計画を作成し、要綱に従って年2回の訓練を行っている。その中の一回は地域と合同訓練を開催している。その中で地域住民に対し、福祉用具(車椅子・ストレッチャー・杖等)の使用方法や留意点を説明している。	年に2回、同一敷地の法人関係施設全体で、うち、1回は黒森地域と合同という形態で防災訓練を行っている。地域との合同訓練では、地域の方々に福祉用具の使用方法なども学んでもらっている。通報訓練や夜間想定訓練も行い、また、敷地内施設全体で食料等の備蓄も行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員論理規定を定め、年度当初に尊重やプライバシーについて研修を行っている。また、メディアに取り上げられたことなどをミーティング等で情報共有しながら、職員間で意見交換をしたり個々の言葉かけについて振り返っている。	一人ひとりの人格の尊重とプライバシー保持については、重要な課題として取り組んでいる。年度当初に法人全体で倫理規定の徹底を図る研修を行うとともに、月例会やメディアで報道された際とか、折々に、事例内容を踏まえて意見交換をしている。特に、言葉かけなどについて重点的に勉強し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や言葉等を観察し、入居者の思いを聞きながら自己決定出来る様に促している。また、個別ドライブにて、行き先や時間帯、食べたい物等希望を確認しながら実施ができています。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを整えるために目安の時間帯はあるが、入居者の体調や希望に応じて食事や入浴の時間を変更している。編み物や縫い物などご利用者の趣味や特技を活かせるよう支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力も得ながら、身だしなみへの配慮が行われている。散髪等に関しては、行きつけの理容室へ行ったり、施設に來所していただくなどして対応している。服装は、衣替えを担当職員と一緒にを行い四季に合った服装が着衣できるようにしている。化粧品のある方は外出や行事の際等さりげなく声掛けをしている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事、おやつや盛り付けを入居者が自主的にしている。また、本体特養と一緒にバイキング食や事前に個々の希望を確認し選択食を月数回行ったり、希望を聞き外食支援を行っている。	法人の共通献立に基づき委託業者が調理した食事を、職員と利用者が一緒になって盛り付け、配膳し、そして会食している。後片づけも一緒に行っている。献立は、季節感にあふれ、多様で、また、バイキングや「選択メニュー」の機会も有り、利用者が楽しめるように工夫されている。個別ドライブの際にお寿司屋さんや馴染みのお菓子屋さんなどに立ち寄り、おやつやケーキを作ったり、食べる楽しみを大切にしている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内に管理栄養士も配置されており、栄養面で考慮された献立となっている。食事・水分量を把握に努めており、利用者の体調の変化に応じ、一人ひとりに合わせた食事を提供している。また、ご家族のご協力も得ながら、入居者の好きな飲み物を差し入れて頂き水分確保に努めている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食の歯磨きや義歯洗浄の声掛けをしている。その方に合わせ指導し必要時は介助を行っている。また、歯科の往診対応も可能となっている。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声掛けを行うことで、トイレでの排泄が増え失禁回数が減少した入居者もいる。また、自立されているご利用者にも、自尊心を傷つけないような声掛けを心がけ、リハビリパンツやパットの交換を促し、清潔が保てるようにしている。	一人ひとりの排泄チェック表にて排泄パターンを話し合いながら、声掛けと誘導に配慮し、トイレで、一人での排泄を支援している。自立されているご利用者にも、特に失敗した場合に自尊心を傷つけないような声掛けを心がけたり、リハビリパンツやパットの交換を促したりし、失禁回数が減少した入居者もいる。それぞれの居室には、トイレが設置されている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握するようにしている。また、水分補給を促したり体を動かしたりしている。食事は、法人の管理栄養士が献立を作成しバランスの取れた食事を提供している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は一応決めてはいるものの、入居者の状態や希望に応じて入浴していただけるようになっている。家庭浴槽での入浴が難しいご利用者には、法人内の事業所での機械浴にて入浴している。	利用者の希望や体調を考えながら、また、入浴を好まない利用者には時間や介助者を配慮したり工夫しながら、週2回程度は入浴できるよう支援している。浴槽の両側に手すりが付いて安全性を高めるとともに、身体機能が低下した者には併設施設の機械浴を利用したりして頂き安全を図っている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を考慮し、休息の声掛けを行っている。一人ひとりの起床・就寝時間に合わせ、ゆっくり過ごして頂けるよう対応している。使い慣れた寝具を持ち込んでいる方もいる。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を通院後必ず把握し、薬の変更時には連絡を頂けるようご家族にもお伝えし、服薬介助を行い症状の変化の確認に努めている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントや日々の会話から生活歴や趣味などを把握している。また、一人ひとりにあった生活の中での役割がある事で張り合いとなり、満足感が得られるように支援している。昨年度よりGH敷地内の畑にて作物を育て収穫等を通して楽しみや達成感を感じて頂けるように取り組んだ		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を感じて頂けるドライブや外出も積極的に行っている。近所の散歩や買い物などの日常的な外出も職員と一緒にしている。また、個別ドライブでは、入居者一人ひとりに行きたい場所・食べたいもの等を事前に聞き、担当職員と一緒に外出している。	天気を見ながら、広い敷地周辺の散歩や買い物に出かけたり、「おらいの畑」でサツマイモ作りを楽しんだり、外気に触れられるように配慮している。また、事業所全体で景勝地や祭りに出掛けたり、個別にドライブをしたり、その際に外食をしたり、さらには帰宅したり、馴染みの美容室に行ったり、出来るだけ多く外出する機会をつくれるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小遣い金を金庫で管理し対応している。個別ドライブや外出時など、できる限りご利用者が支払いやおつりを貰う事ができるよう対応している。小遣い帳も活用しご家族にもお知らせしている。残金や何を購入したかを一緒に確認し、サインももらっているご利用者もいる。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望時には、電話連絡ができる対応ができています。個別で携帯電話を所有している方もいた。また、遠方の娘さんと手紙のやりとりをしている入居者もあり、対応ができています。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>建設時にインテリアデザイナーのアドバイスを頂き開所した施設でもあり、自宅のようにくつろげるような心地良い空間となっている。就寝時には、ゆっくりと休めるようにご利用者と部屋の明るさを調整している。また、季節感を感じて頂けるように、季節にあった物を折り紙や画用紙等で職員と一緒に製作し、壁面の装飾を行っている。GH敷地内の畑に作物を植え、ご利用者よりアドバイスをいただいたりと一緒に水やりや収穫を行っている。</p>	<p>事業所は集落・敷地内の高台にあり、庄内平野を見渡せる景観の中に設置されている。居間は広く、明るく、床暖房などで温度湿度も管理されている。真ん中にテーブルやソファが配置され、利用者が手作業したり、学習療法に取り組まれたり、思い思いに寛いでいる。壁面には、落ち着いた感じの絵が飾られ、折り紙で作られた作品もある。大人が寛ぐ、温かい雰囲気が感じられる。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルとソファがあり、ご自分の好きな場所に座り、テレビを観たり、気の合う方同士で過ごす事ができるよう椅子の配置等検討されている。また、居室で一緒におやつを召し上がられたり、談笑しながら過ごす方もいる。</p>			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時にご家族に説明し、理解と協力を求めており、実際にダンスやテレビ、ラジオ、椅子等を持ち込んだ入居者が数名いる。また電気毛布など自宅で馴染みのあるものを持ち込んでいる方もいる。</p>	<p>利用者の居室には、洗面台、トイレが設置され、作り付けの家具が設えられている。そこに、本人が使い慣れた椅子、テレビやラジオ、電気毛布などを持ち込んだり、壁に家族との思い出の写真を貼ったりしながら、それぞれが継続感を持ち、居心地良く過ごせるように工夫している。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室に表札を設置し自室の認識ができるよう配慮している。また、居室の入り口にフックを設け自室を認識できるような環境を整えている。</p>			